

(そのとき、)イエスは聖霊に満ちて、ヨルダン川からお帰りになった。そして、荒野の中を“霊”によって引き回され、四十日間、悪魔から誘惑を受けられた。その間、何も食わず、その期間が終わると空腹を覚えられた。そこで、悪魔はイエスに言った。「神の子なら、この石にパンになるように命じたらどうだ。」イエスは、「『人はパンだけで生きるものではない』と書いてある」とお答えになった。(中略)そこで、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて言った。「神の子なら、ここから飛び降りたらどうだ。(中略)」イエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』と言われている」とお答えになった。悪魔はあらゆる誘惑を終えて、時が来るまでイエスを離れた。 -ルカ4章-

悪霊に勝利する聖霊

ヨルダン川で洗礼を受けた主イエスが最初に赴いた所、それは荒野でした。全ての虚飾が取り去られて、生きるための本質だけが見える試練の場です。この過酷な環境を生きる術は、神が導く教えに従う以外、一瞬の過ちが死につながる世界です。

かつて神の民がエジプトから解放された時、三日で行ける約束の地を迂回して、40年間、過酷な荒野をさまよった教訓を生かせず、神を離れて国を滅亡させた民の不信仰を、イエスは荒野の40日間の試練で成就し、私たちにその生き方を示されたのです。しかしその生き方とは、意外にも、自我に死んで得る聖霊で、人の心に住む「悪霊に勝利する道」だったのです。ここに人々の声が上がります。

- 「人類を救うために来られた神さまは、敵に身を任せて命を捨てて逝きました。この方を「救い主」と崇めています、どのように私たちに救ったというのですか？」
- 「苦しい時 『祈りなさい。神様とお話しなさい』 と勧められましたが、神様からは返事がありません。ネット検索の方が手っ取り早いです！」
- 「復活を信じて 『許しなさい。自我に死になさい』 と言われますが、私には無理。どうしてそんなことが出来るのでしょうか？」

電車の座席のほとんどの乗客がスマホと向き合っている昨今、上記の質問に、たとえ名回答を与えても、おそらく体で納得してはもらえないでしょう。ある日、幼稚園の園庭で転んだ男児が、起き上がろうとせず、うめき声を発したのです。「起きるぞーっ」。後方で立ち話をしていた母親がか駆けつけて助け起こしましたが、神様は、人間がするようにはなさらないでしょう。

- 受難死を告知されたイエスをいさめたペトロに「サタン引き下がれ」と叱って「あなたは神の事を思わず、人間の事を思っている」と戒められたイエス。
- ベトザタの池で「主よ、水が動くとき、私を池の中に入れてくれる人がいないのです。私が行くうちに、他の人が先に降りていくのです。」と訴えた病人に「起き上がりなさい。床を取って歩きなさい。」と言われたイエスです。
- 神さまは、世の悪い「毒麦」を抜き取ってしまうやり方でなく、良い「麦」が実るのを待つやり方で、人が起き上がって歩く「力」を与えてくださるお方ようです。
- その力とは、信じた通りになる「信仰」。信じてくれるのを待っている神様です。

幸せのようなもの(金、出世、贅沢)で溢れている人間世界に溺れず、神が用意しておられる本当の幸せ(共生、共有、平和)を求めて、自分の力に頼らず、無力さゆえに神にすぎる子どもの素直さで、四旬節を過ごし、洗礼志願者は、神の子どもとなる洗礼の恵みを、信者は、信仰の実りである復活の恵みを、祈り願うよう努めましょう。